

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターいわき小名浜

作成者: 山崎 美鈴

作成日: 2023 年 2 月 10 日

運営推進会議における評価実施日: 2023 年 3 月 28 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B	毎日、朝礼や夕礼でスタッフと管理者で作った事業所理念を唱和し共有している		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	C	コロナ禍により以前より少なくなっているが、市内会館に加入し地区自治会や地域自主防衛隊などに参加し修繕などの発がりを大切にしている		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	C	コロナ禍の為、運営推進会議は中止をしているが、よりサービスの向上に繋げるよう運営で意見を求めている。今年度からは第三者評価(外部評価)を運営推進会議においてサービス評価を実施する		
4	市町村との連携	市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	C	コロナ禍においてスタッフの陽性者対応や、濃厚接触者対応などの指示や判断をいちいち相談を行っており現在も利用者様のコロナ感染には至っていない		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	B	身体拘束適正会議委員を充足し、月に1回身体拘束適正会議を行い、全スタッフに意見交換を行い適切なケアに日々取り組んでいる。日中滞の玄関の施錠は行っていない	B	ほぼできている
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	B	毎月の身体拘束適正会議や年間研修での虐待防止を取り入れ、スピーチロック撤廃に向け、管理者を中心に全スタッフ間で指摘しあえる環境づくりを行っている	B	書面報告では確認できず評価は難しい
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B	現在、後見人制度を利用している利用者がおり年間研修に権利擁護を加え後見人制度の理解を深め実践に活用している		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	C	コロナ禍においては長時間の対面説明を短時間で進めるよう事前に重要説明書や契約書を渡し不明な点やより重要点は電話や対面で対応している		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	B	年に1度、顧客満足度調査を行いご家族からご意見や要望を頂き運営に反映させている。また玄関にご意見箱を設置している	A	コロナ禍において面会ができない中、紙面等を活用し家族と連携している
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B	各種会議や日常の業務内で職員一人ひとりの意見・考えを述べやすい環境づくりを行い運営に反映させているか必要に応じて面談も実施している		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	C	社内のスキルアップ制度があり、各自が向上心を待って業務に就けるよう環境が整っている。また、拠点内1階と2階のスタッフ間で定期的な異動をする事で業務のマンネリ化を防ぎリフレッシュを促したりチームワーク作りを努めている	B	ほぼできている
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	C	法人内・外の研修の案内を随時実施し、参加を呼びかけると共に、参加希望者へはソフトを調整し、各自がスキルアップできるよう努めている	B	ほぼできている
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	C	グループホーム協議会へ加入しており、デイケアを共有し余剰に参加することで情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	B	支援をする方、うける方にとらわれず一緒に生活をする家族、同士として庭先に咲いている花を見て一緒に感動したり、収穫した野菜に感謝を込めた時には感謝をする事などさいな事での思いを共有する事を大事にしている		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	D	コロナ禍によって馴染みの人に会う事や外出支援が出来ていない		

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターいわき小名浜

作成者: 山崎 美鈴

作成日: 2023 年 2 月 10 日

運営推進会議における評価実施日: 2023 年 3 月 28 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進 会議 における 外部評価	記述
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	B	担当者会議や日常の会話を通じて表情や言動から本人の思いをくみ取り、気づきを重要視して把握できるよう努めている。		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	B	介護計画書の更新時、心身の状態変化に合わせたケアプラン・担当者会議を実施し、本人が抱えている問題・ご家族の要望・スタッフの提案を反映し、現状に即した介護計画書を作成している	B	利用者様のお1人お1人の体調や服薬状況の管理ができている
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	B	日々の個別記録や、センター方式を記載していることで、情報の共有を図り、実践・介護計画書に反映している。	B	薬剤師側は非常に助かっている
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに提供できない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	C	ご本人・ご家族の状況に応じて、通院等の必要な支援を実施している。また、介護保険以外のサービスの情報を提供している		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	D	現状はまだ、外割との接触、交流に制限がある為、難しい		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	B	本人・ご家族の要望に応じ、月1~2回、提携医による往診や他医療機関への受診等、ご本人に適切な診療が受けられるようご家族にも支援をいただきながら健康の管理をしている		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	B	入院に至ってしまった場合でも定期的にご家族・医療機関と連携し状況確認や洗濯物支援など行っている。	A	情報の共有をしており、医療機関と連携している
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	B	契約時に定文化した場合における指針を熟知し、本事業所が出来ることへの理解を促すよう努めている。その上で家族、本人の意向でターミナルケアや看取りを希望される場合には家族、医療との連携を図り支援している。またスタッフは終末ケアや看取りに関しての研修を取り入れ実践にも繋げている	B	ほぼできている
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B	緊急時対応マニュアルや、定期的に消防署員指導の下、人工呼吸、心臓マッサージ、AEDの使用法を習得している。また、当施設には応急普及員資格取得者が2名いる為、身近に指導が受けられる環境にある		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	C	緊急避難時に対応できるよう、現在業務継続計画(BCP)を作成中である。また、消防署立会いの避難訓練は年2回行っているが、近隣との協力体制が整うまでは至っていない。災害時に備え食料、備品を備蓄し、定期的に消費期限の確認や入れ替えを行っている。	B	緊急時体制や地域での避難訓練へ参加するなど教育・体制づくりに取り組んでいる

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターいわき小名浜

作成者: 山崎 美鈴

作成日: 2023 年 2 月 10 日 運営推進会議における評価実施日: 2023 年 3 月 28 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
III. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B	各スタッフはコンプライアンスポリシーを理解し、コンプライアンスカードを所持している。一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーや個人情報保護等に配慮した声かけ対応を行い年間研修にも取り入れている。個人情報等の保管は鍵付きロッカーで管理している	B	ほぼできている
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日どのように過ごしたか、希望にそって支援している	B	ホームでの生活が、自宅家庭の延長と位置づけ生活リズムを崩さないよう配慮し支援している		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A	食事摂取の様子や会話から、嗜好の確認や摂取量の確認・把握を行い、または利用者の希望のメニューを取り入れ、委員会が中心となり献立を検討している。また、利用者IADLを考慮し献立をいただいたり、食器拭きなど一緒にできるよう支援している	A	充分にできている
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A	毎日食事・水分摂取チェック表を利用し、一人ひとりの摂取量の把握に努めている。また口腔・栄養スクリーニングを定期的に実施し栄養状況のリスク管理をしている		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A	口腔ケアに関する技術的助言、指導を歯科医師・歯科衛生士から指導を受け口腔ケア、マネジメント計画書を作成しサービス提供を行っている	A	充分にできている
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	B	排泄チェック表を活用し、個人の排泄パターンを把握することに努め、トイレで排泄が出来るよう養護確認や、声かけ等を行い、自立に向け支援している	A	充分にできている
32	入浴を楽しむことのできる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	B	本人の希望や体調等を考慮し、午前と午後の個人にあった入浴時間での支援を行っている。入浴剤を希望される方には入浴剤を用いてリフレッシュを図っている		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A	体調・状況に応じて休息を促している。また、空調や光等にも配慮して安眠できるよう支援している		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A	内服薬の効能・効果について程度情報の共有を図っている。また、投薬時間や投薬量と連関し症状に変化等ないか、充分の様子観察している	A	副作用の可能や残薬について、こまかく行っている
36	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	B	季節に応じた行事を開催している。また、日常生活の中で個人の能力に応じた生活リハビリを実施している。余暇活動でのトランプ、将棋、折り紙、塗り絵、パズルなど様々な楽しみを持っている		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	C	コロナ禍においては制限することもあるが、個別性を重視し行える範囲で散歩や近所への買い物等、本人の要望を踏まえながら実施している。		
37	お金の所持や使うことでの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	C	ご家族からおこずかいとして金庫で管理しており、各自お財布を用意し買い物時には自分で支払いが出来るよう支援している		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	B	家族や知人の方から電話があればご本人へ際している。手紙のやり取りなどは一部の利用者ではあるが好みの便箋やはがきの購入など支援している		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能がわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A	空調・温度の調整を行い、快適に生活できるよう支援している。また、壁の装飾など季節を感じられるよう共有空間の環境を整えることで、居心地良く生活できるよう支援している	A	充分にできている

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンターいわき小名浜

作成者: 山崎 美鈴

作成日: 2023 年 2 月 10 日

運営推進会議における評価実施日: 2023 年 3 月 28 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	B	帰宅願望の訴えが強い時など、より寄り添う介護を支援し本人の思いを傾聴し日光浴や気分転換を図るようにしている		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	B	コロナ禍の中で家族・友人の面会が難しい時もあったが現在はオンライン面会や希望があれば、二週間の検温実施報告を提出していただき短時間の対面会を行なっている。その際にアセスメントも行うようにして、その人らしいケアができるよう支援している		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A	入居者全員が往診診療に繋がりに医療機関や薬局と連携を図り日々の生活を支援している	A	充分にできている
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	B	施設主体ではなく、各利用者様のペースに合わせて朝刊を読んだりスタッフと共に家事などを行い生活している		
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	B	自室に家族との写真や手紙・お守りなどを掲示したり、手作業での作品を飾っている	B	工夫されている
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	D	コロナ禍の中で町内の催事などが中止になっていることもあり、戸外の外出は少人数でマスク着用での散歩になっている		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえ、役割や、楽しみごとを行うことができている	B	意欲の低下が起こらないよう個々のアセスメントを行い趣味や余暇活動が継続できるよう支援している		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	B	自己決定を大切に、自宅で過ごしている延長と捉えて生活が送れるよう支援している	B	ほぼできている
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	D	コロナ禍においてほぼ交流はできていない		
49	総合	本人は、このGHに在ること、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	B	安心した生活が送れ満足していると利用者からの意見を頂く事ができている。	B	ほぼできている

総評

・認知症の高齢者などに対して、個別支援を実施し、その人らしさを大切にしたいケアを心掛けている。
 ・コロナ禍において、家族や地域とのコミュニケーションに心掛け連携に努めている。
 ・コロナ禍の中、イベントや面会など工夫されている
 ・職員のコロナ禍感染者が発生したときも、適切な対応でクラスターを防ぐことができた。
 ・服薬情報を訪問の際、共有して下さっている。必要に応じて医師へのアプローチもしやすく今後より連携を強めたいと考えている。
 ・服薬アドヒアランス(服用困難、副作用によるリスク回避等)向上も貢献していければと思います。

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

・高齢者虐待防止、権利擁護に関する研修や対策について開示方法や取り組みについてわかるように開示できれば更に望ましい。
 ・利用者様の情報をよく把握されているスタッフの方とそうでないスタッフの方の差があるように思えます。スムーズに状態観察を行うためにある程度把握していただけると助かります。
 ・スタッフ間で個人情報保護のための利用者様を番号で呼んでいるので看護師の私たちに、誤認防止のため名前前で伝えてほしい。

参加者サイン欄

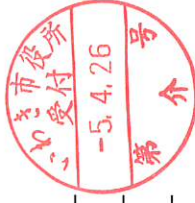
小名浜地域包括支援センター様	アイランド薬局岡小名店様	小名浜岡小名地区民生委員様
かしま訪問看護ステーション様	岡小名南区長様	デイサービスあしび管理者様

帳票D

事業所名 ニチイケアセンターいわき小名浜

作成日: 令和 5 年 3 月 28 日

作成者: 山崎 美鈴



目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるといような、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		お客様の情報がスタッフ間で統一して情報共有されていない	お客様の情報を全職員が共有し把握されている	事業所のミーティングや担当者会議や申し送りノートの活用にて、情報周知の徹底を行う	6ヶ月
2		スタッフ間において個人情報保護のためお客様を部屋番号で呼んでいたが、誤認防止のため個人名で呼ぶ	スタッフ間、お客様を部屋番号で呼ぶことなく、個人名で呼ぶようにする	スタッフ間、医療機関、他業種においても業務中の会話は個人名で呼ぶように取り組みを行う	3ヶ月
3	6	高齢者虐待防止、権利擁護に関する研修について取り組み内容がわからない	高齢者虐待防止、権利擁護の研修の時は報告書を作成して開示する	運営推進会議の開催時に研修内容を参加者に伝える	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。